

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：ヘルパーステーション ながひさ

サービス種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

地域密着型通所介護 ・ 認知症対応型通所介護

■定期巡回・随時対応型訪問介護看護

日 時： 令和2年3月23日（月曜日）

場 所： 書面開催

出席者：5名

利用者代表	0人	知見者・地域代表	1人
利用者家族	0人	大田市職員	1人
医療関係者	1人	連携訪問看護	1人
事業所職員（職名：管理者・サービス責任者）			2人

欠席者 2人

報告事項：

利用者の状況

①入所者、登録者、利用者の人数

月	利用者数
9月	26名
10月	28名
11月	28名
12月	28名
1月	29名
2月	31名

②要介護度

【介護度別】

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
要介護1	8名	9名	9名	8名	8名	8名
要介護2	6名	6名	6名	7名	7名	6名
要介護3	4名	4名	4名	4名	4名	5名
要介護4	6名	6名	6名	6名	6名	7名
要介護5	2名	3名	3名	3名	4名	5名
計	26名	28名	28名	28名	29名	31名

③男女比率

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
男性	7名	9名	9名	8名	8名	8名
女性	19名	19名	19名	20名	21名	23名
計	26名	28名	28名	28名	29名	31名

④年齢

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
70代	2名	2名	2名	2名	1名	1名
80代	12名	13名	13名	14名	15名	16名
90代	11名	12名	12名	11名	12名	13名
100代	1名	1名	1名	1名	1名	1名
計	26名	28名	28名	28名	29名	31名

⑤地域別利用

令和2年3月現在、和かち逢う家入居者のみ利用されている。

議 題：

1 活動状況報告

- ・ 3月23日時点、31名定期巡回・随時対応型訪問介護看護を利用されている。
(新規9月：2名,10月：3名,11月：0名,12月：1名,1月：0名,2月：2名,3月：1名)
- ・ 訪問介護利用者が定期巡回・随時対応型訪問介護看護へ移行されている(3名)
理由としてADLの低下等で介助が必要となった事が挙げられる

【提供実績】

月	定期巡回
9月	3446回
10月	4063回
11月	4283回
12月	4274回
1月	4140回
2月	4160回
3月	3953回

2 意見、要望等

「事業所から」

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用者が増え、マンパワー不足は課題である。求人募集等行っているが現状難しい。
- ・ ケア内容の評価を行い利用者の出来る事を増やせるように自立支援を促していく。

「知見者・地域代表から」

- (1) 利用者が前期(23名)から後期31名と増えています。人員不足のなか、介護度が改善されたケースが多く紹介されており、本当に頑張っておられます。
- (2) 外部利用者が後期はありませんでした。地域住民として、また認知症高齢者と同居している家族として、24時間のサポートが期待できるこの事業の更なる充実を期待しています。今は実績を増やすことが重要ですが、常に地域住民へ繋げていく視点を見失わないでください。
- (3) 介護度5の利用者が4~5名おられます。看取り期に移行し終末までの看取りケアについて情報提供をお願いします。

- (4) 介護度が改善されたケースが紹介されてありました。結果オーライではなく、事例としてまとめられることをお勧めします。成功事例をチームで共有し積み重ねることで経験値が増します。余計な事ですが、人生の曲がり角（住まいが変わる、認知症、寝たきり等）を支えられる専門職の皆さんは、相当しっかりした介護力・看護力が必要となります。そのためには基本的知識と技術そして経験値が必要となります。

「大田市役所から」

- ・ 様々な職種の方が連携し、個々の状況に応じた支援を行うことで介護度の改善が見られた事例があることから、今後も引き続き同様の体制づくりに努めて頂ければと思います。

3 今後について

- ・ マンパワー不足は課題ではあるが、事業所で創意工夫をしケアの充実を図る
- ・ 多職種共同で自立支援を促し、介護度の改善がみられるよう努めていく

4 その他

- ・ 自己評価について

別紙参照

外部評価コメント欄について、黒字は「大田市役所」

赤字は「知見者・地域代表」で表示しています。

次回 令和 2年 9月 28日（月）15:30～開催予定